

多文化共生社会の 実現に向けた取組について



三重県鈴鹿市 地域振興部
市民対話課長 山田 昭弘

I 鈴鹿市のプロフィール

I 鈴鹿市のプロフィール

鈴鹿市の誕生

1942(S17)年12月1日に産声。
海軍工廠などの施設建設が機運と
なって、2町12カ村が合併して誕生。

鈴鹿市の人口

198,355人(2021年3月末現在)

鈴鹿市から主要都市へのアクセス

東京まで2時間30分
大阪まで1時間30分
名古屋まで40分



I 鈴鹿市のプロフィール

THE CITY OF SUZUKA



鈴鹿市の発展

本田技研工業株式会社
本田 宗一郎 氏



出典 本田技研工業(株)HP

鈴鹿の道は
世界に通ず



1962(S37)年9月
鈴鹿サーキット完成



Nシリーズ
出典: 本田技研工業(株)HP

鈴鹿市に立地する企業

旭化成株式会社 鈴鹿製造所



出典: 旭化成株式会社HP



AGF鈴鹿(株)



出典: AGF鈴鹿(株)HP



富士電機(株) 鈴鹿工場



出典: 富士電機(株)HP



住友電装(株) 鈴鹿製作所



出典: 住友電装(株)HP



ワイヤーハーネス製造風景

Ⅱ 多文化共生社会の実現に向けて

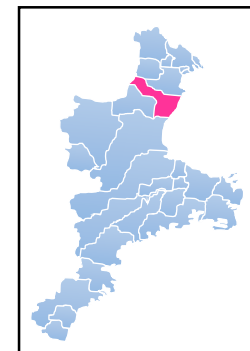
Ⅱ 多文化共生社会の実現に向けて

鈴鹿市における外国人の状況

◇外国人人口と比率

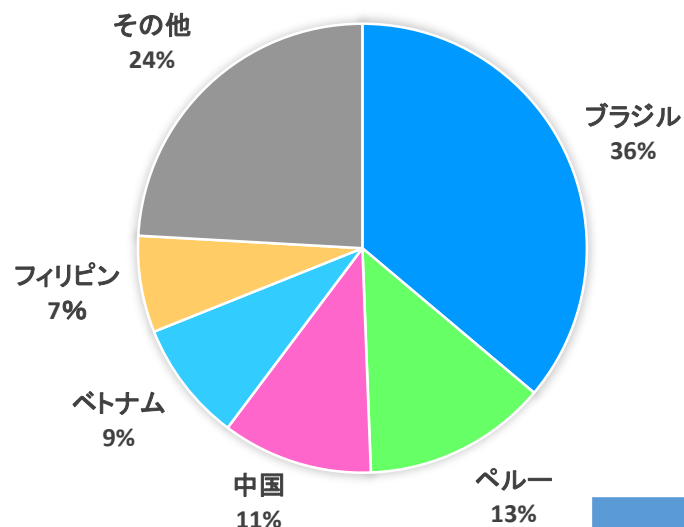
令和3年3月末現在

総人口	うち外国人人口	比率
198,355 人	8,772 人	4.4 %



◇国籍別外国人人口と割合

令和3年3月末現在



国名	人口
ブラジル	3,170人
ペルー	1,163人
中国	952人
ベトナム	762人
フィリピン	610人
その他	2,115人

◇留学生の出身国別状況

出身国	人数
ネパール	206人
ベトナム	60人
中国	65人
韓国	56人

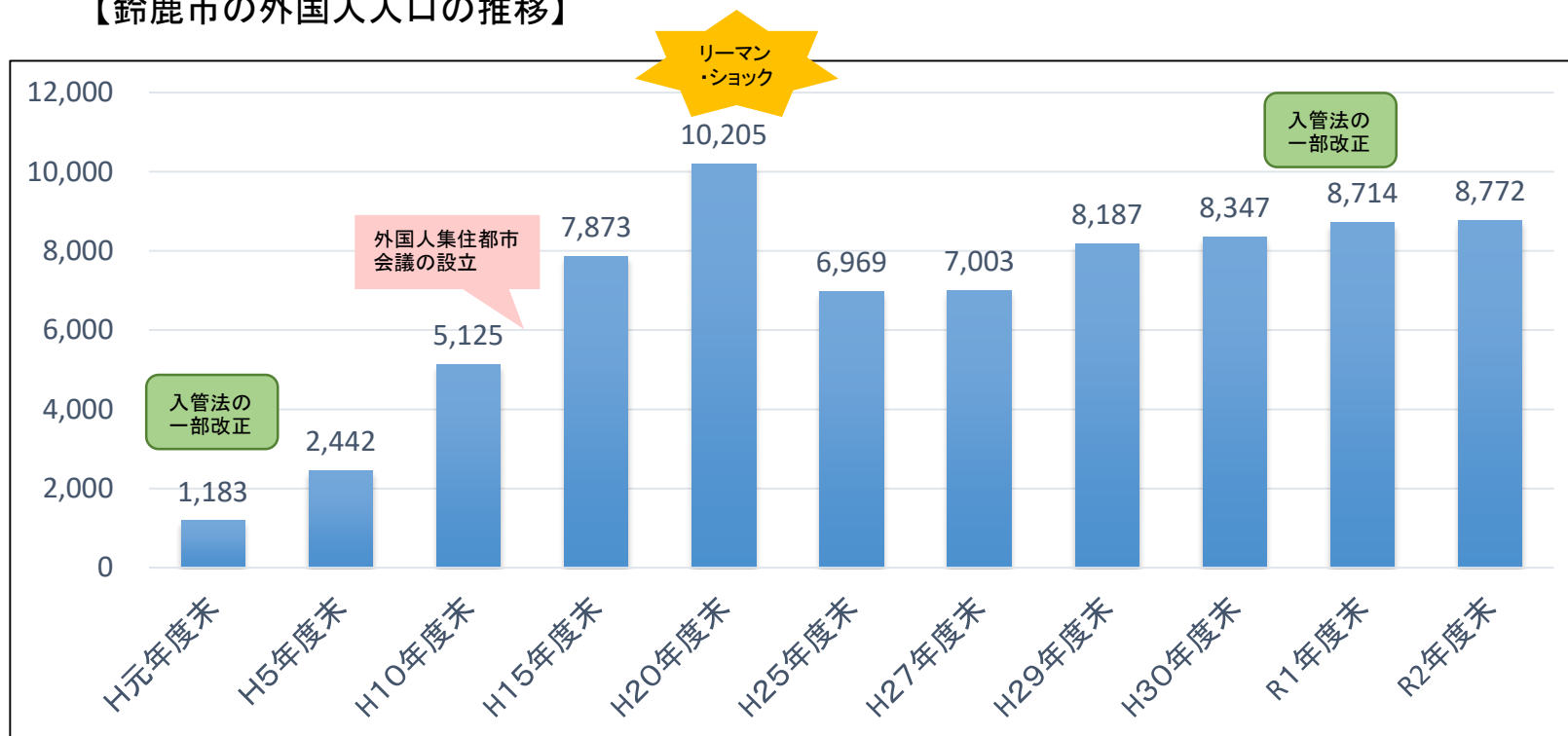


▲鈴鹿大学

Ⅱ 多文化共生社会の実現に向けて

鈴鹿市における外国人の状況

【鈴鹿市の外国人人口の推移】



- ◇平成2年 出入国管理及び難民認定法の一部改正⇒人口増
- ◇平成13年 外国人集住都市会議の設立
- ◇平成20年 リーマンショックによる景気悪化⇒人口減
- ◇平成25年以降 外国人人口安定⇒鈴鹿市での定住化
- ◇平成31年以降 出入国管理及び難民認定法の一部改正⇒特定技能制度の影響

* 令和元年10月から登録あり 現在, 5か国籍 45人が在住

Ⅱ 多文化共生社会の実現に向けて

将来を担う子どもたちへの支援①

★市内小中学校の取り組み

日本語教育支援システム



【プロジェクト会議】

日本語教育の基本的な方向性、取組等の進捗状況の把握、取組の検証や改善策などを協議

【ネットワーク会議】

プロジェクト会議の決定内容に基づき、日本語指導教材の開発や日本語指導についての研修、情報交換を行う

【国際教室運営会議】

各小中学校に在籍する外国人児童生徒一人ひとりに応じた支援の在り方、JSLバンドスケールについて検討

【日本語コーディネーターの配置】

日本語教育コーディネーターが学校訪問を行い、日本語指導の研修や校内指導体制づくりを支援

JSLバンドスケールの活用

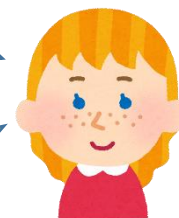
早稲田大学大学院開発
H20年からJSL児童全員に実施

聞く

読む

話す

書く



書く

4つの項目をチェック

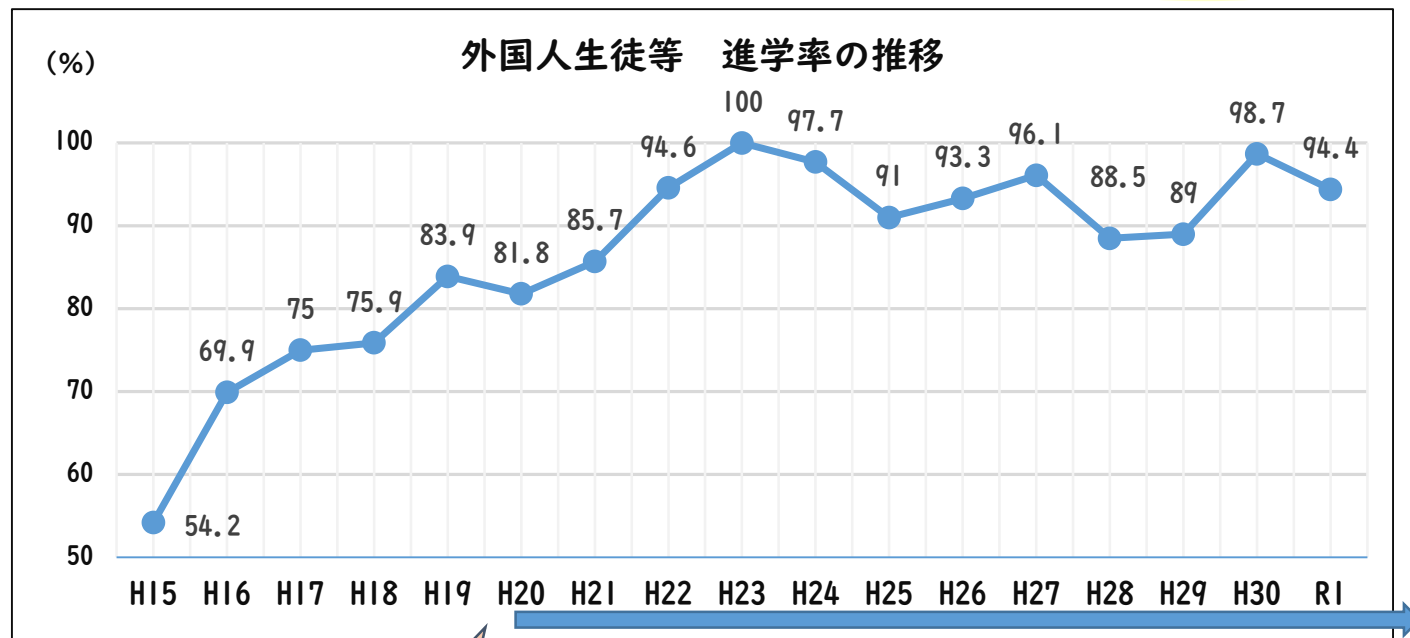
書く		4つの項目をチェック
A-1A	書く レベル1A	グループA…入国まもないが、日本語で書くのは初めて
1		○ 教科書や身の回りの印刷物などの語句をまねること
2		・ 書く作業に集中し、取り組むことができるが、話か理解するのは難しい。
3		・ 二言語辞書を使って一語ずつ翻訳することもある。
4		・ 第一言語で書くことはできる。
5		・ 原稿用紙などに縦に書くことを理解するのに時間
A-1B	書く レベル1B	グループB…入国まもなく、第一書くのは初めて
1		○ 第一言語での読み書き経験と、初歩的な読み書き
2		・ 読み書きの概念や文字への気づきが定着し、日本
A-2	書く レベル2	日本語で書くことを試み続ける。
1		○ 身の回りにある文字を書き写したり、教師が書い
2		○ 写真や図表に見出しや題名を書き込むことができ
3		○ クラス全体やグループでのテキストづくりに、最
4		
5		
6		
A-3		
1		

日本語の能力の把握
→指導計画の作成

将来を担う子どもたちへの支援②

★外国人生徒の進学率の推移

外国人生徒の高校進学
の意識が定着



※帰国・県外への転居、ブラジル人学校への転出を除く

日本語教育構築
プロジェクトの開始

- ・JSLバンドスケールの実施
- ・日本語担当者ネットワーク会議
- ・リライト教材の作成
- ・進路ガイダンスの開催
- ・個別の指導計画の作成
- ・国際教室研究授業
- ・日本語指導研修会
- ・通訳の派遣・翻訳 など

外国籍児童への新たな取組

★外国籍児童 長期休み学習支援教室の開催

8月3日から21日までの平日(8月12日から14日を除く),
12月24日から1月7日までの平日(12月26日から1月4日を除く)
外国籍の小学生を対象とした学習支援教室を開催

参加者:53名, 25名 ボランティア:53名, 28名(学生含む)

主催:公益財団法人 鈴鹿国際交流協会



【課題】

- 日本語力だけではなく、数の概念や、計算・九九など基礎的な学力が定着していない児童が多い。
- 新型コロナウイルス流行による長期間の休校で、学習の定着ができていない児童が多い。
- 夏休みや冬休みの課題は家庭のサポートが必要であるが、外国籍の家庭では難しい場合がある。
- 毎日の保護者の送り迎えが難しいために通えなくなる、あるいは、通えなくなった子がいる。
- 一人ひとりに合った支援を行う為、学校との密な連携やボランティアの育成が必要不可欠である。



【学校での様子に変化】

- ・教室のことをクラスでもはなしてくれる。
- ・休み明けでも日本語を忘れていなかった。
- ・わからないところを聞けるようになった。
- ・自分で解こう、分かってようようになった。
- ・宿題を必ずやってくるようになった。
- ・1対1の時、日本語でのやり取りが増えてきた。



▲ポスターを書く前に、
ポイント説明を聞く子どもたち

Ⅱ 多文化共生社会の実現に向けて

就学前施設(公立保育所)での独自対応

外国籍児童が安心して園生活を送り、また、保護者が安心して児童を園に預けることができるよう、様々な取組を実施

- ・「外国人コーディネーター」の配置
→ポルトガル語, スペイン語の通訳(各1名)ができ, 各園を巡回
→通常の相談, トラブル発生時, 緊急時の保護者対応と翻訳業務
- ・「外国人加配保育士」の配置 →在籍数の多い園に配置

外国の手遊び・歌・ダンス・絵本の読み聞かせ等
→ 母国語への理解

多文化交流のかけ橋としての役割



▲子どもへの支援
絵カードを使用



▲保護者への支援
絵カードを使用



就学前施設(私立保育所)での独自対応

外国籍児童が安心して園生活を送り、また、保護者が安心して児童を園に預けることができるよう、様々な取組を実施

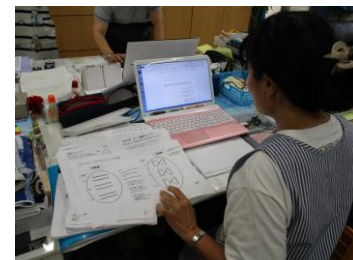
【例】

- ・児童や保護者への対応
 - ポルトガル語、スペイン語ができる通訳や保育士を配置
 - 保育補助員(ペルー国籍、ケニア国籍)の配置
 - 英語ができる人材の配置
- ・通訳の人材確保が困難な園 → 翻訳機の活用

各園での母国語への理解

言葉が通じない児童・保護者の安心感

ほとんどの園は
通訳が配置できない



▲運動会のプログラムを翻訳



▲翻訳機を活用



難民の受入れ

平成22年（2010年）【第三国定住事業】 ⇒ 本市において、ミャンマー難民を受入れ

平成22年度から3年間のパイロット事業

⇒平成22年度にミャンマー難民3家族が転入

- RHQ・行政・事業者・学校などによるネットワーク体制により、情報共有や意見交換を行い、家族のより良い定住に向けての方向性について意思統一
- 難民に関する国際会議やシンポジウムを開催



▲鈴鹿円卓会議の様子



第三国定住難民の受入れ体制

Ⅱ 多文化共生社会の実現に向けて

外国人集住都市会議への参画

設 立: 2001年(平成13年)5月7日

参加都市: 13都市(現在)

目 的: 外国人市民に係わる施策や活動状況に関する情報交換を行う中で、
地域で顕在化しつつある様々な問題の解決に積極的に取り組んでいく。

課題: 就労, 社会保障, 医療
子どもの教育, 日本語教育,
地域コミュニティ, 防災等
多岐に渡る。



◀ 日本語教室や就学前児童の
支援について提言しました。



▲ 外国人集住都市会議うえだ2019の様子

日本語教室(市内3箇所)

ボランティアによる日本語教室

* 公民館, コミュニティセンター等で開催

★牧田いろは教室

★鈴鹿日本語会AIUEO

★桜島日本語教室

地域のボランティアによる開催。

人材不足や適当な広さの学習環境の確保に苦慮している。

日本語学習だけでなく、日本の文化や社会習慣について学んだり、生活相談にも応じるなど、外国人市民に寄り添った活動を実施している。

【課題1 教室の開催日時】

各教室とも、比較的通いやすいよう、平日の夜間や週末に開催

⇒外国人学習者は、長時間就労のため、学習の時間を継続して取ることが困難。

また、この開催日時により新たなボランティアスタッフのなり手が不足。

【課題2 教室運営の限界】

外国人学習者、特に技能実習生が増加傾向にあり、ボランティアスタッフの高齢化とスタッフ不足

⇒外国人の就労先企業等から受入れを依頼されることもあり、対応に苦慮している。

このまま増加傾向が継続すると場所の確保も困難であるとともに、新規ボランティアスタッフが見込めない中、高齢化が進む現在のスタッフの継続も限界になってきている。

【課題3 コロナ禍における教室開催】

教室ごとに対応は違う(対策を取りながら開催, 休講)。オンラインによる開催は現状困難

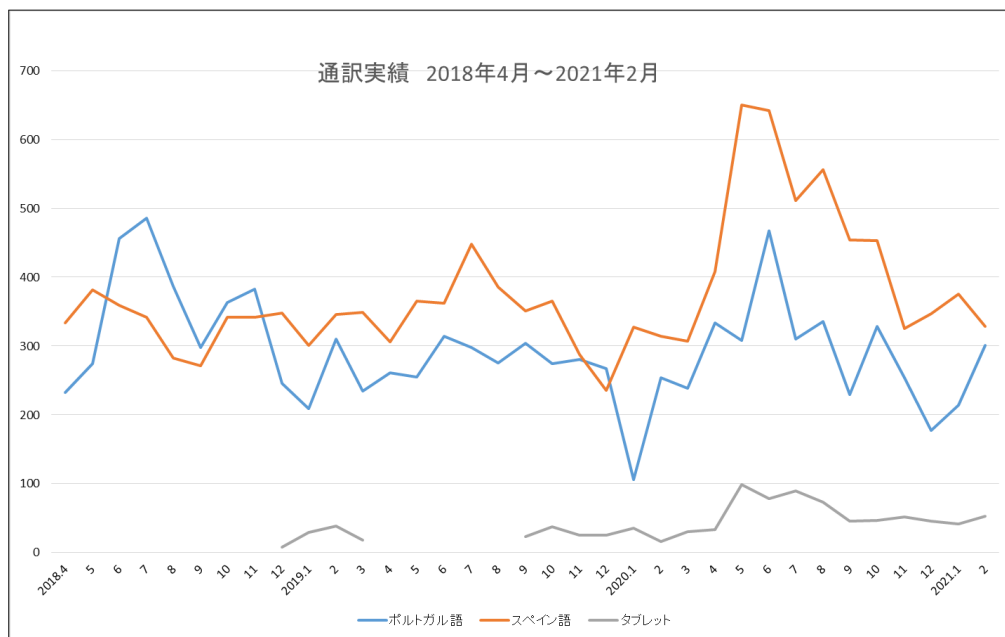
⇒外国人学習者の学習環境, スタッフの指導方法等に課題。

● 外国人へのコロナ対策に関する取組 【鈴鹿市】

① 相談窓口の拡充

ポルトガル語, スペイン語の通訳職員配置に加え, タブレット端末を使った13言語対応の多言語通訳システム4台で対応

- ▶5台に増設
- ▶多言語電話通訳サービス(12言語対応)の導入
 - ➡窓口来庁者にはタブレットで対応, 外出制限下の場合には電話通訳で対応が可能



Ⅱ 多文化共生社会の実現に向けて

● 外国人へのコロナ対策に関する取組 【鈴鹿市】

② 外国人への情報発信

- ▶外国人向けホームページ「Amigo SUZUKA」の開設
- ▶Facebook「Amigo SUZUKA」の開設

新型コロナウイルス感染症に関する情報をはじめ、

外国人市民にとって必要と思われる有益な市の情報などを

・ポルトガル語 ・スペイン語 ・やさしい日本語で 正確かつ迅速に提供

➡自動翻訳ではなく、職員が伝わりやすい表現・文章に作成、
翻訳したものを掲載



【Facebookフォロワー内訳】

- ・ポルトガル語 :497人
- ・スペイン語 :377人
- ・やさしい日本語:360人

Ⅱ 多文化共生社会の実現に向けて

● 外国人へのコロナ対策に関する取組 【鈴鹿市】

③市内在住外国人留学生への応援事業

世界的な新型コロナウイルス感染拡大に伴い、帰国できないまま勉強を続ける留学生140人超に、お米をはじめ本市の特産品等を応援物資として進呈

- さまざまな国籍の留学生が在住するため、
彼らの好みや日常使いできるものを調査し、選定



<一例>

- ・お米(新米)10kg, ・醤油300ml, ・レトルトカレー5食分,
- ・カフェオレ2箱, ・お菓子(クッキー)詰合せ1缶,
- ・ラップ2本, ・伊勢型紙マスク1枚 など



▲留学生に訪問いただいた際の様子

Ⅱ 多文化共生社会の実現に向けて

● 外国人へのコロナ対策に関する取組 【鈴鹿市】

④ 感染(クラスター含む)対応

▶外国人コミュニティ内に向けたSNS等による情報発信

- ➡新型コロナウイルス感染に関し、
情報を届けるべき対象(コミュニティ)を特定し、
代表者を通じて、対象者に情報を発信



▶外国人を雇用している事業所や外国人がよく利用する飲食店等への注意喚起ポスターの掲示

- ➡外国人の雇用側, 集まる場からのアプローチとして、
年末年始のイベント前に掲示を依頼



● 外国人へのコロナ対策に関する取組 【鈴鹿市】

⑤外国人を含めた就労支援事業

ハローワーク等との連携により、外国人を含めた支援事業を実施

【鈴鹿deはたらこっ】

▶外国人向け就労セミナーの実施

就職活動に必要なコミュニケーション力を身に
着けるためのセミナー(Web会議)

➡「Amigo SUZUKA」等にて周知

▶鈴鹿お仕事フェア 合同企業説明会(3回)の実施

➡回を重ねるごとに外国人の参加者が増え、外国人相談ブースを設置
コロナ禍において時短勤務になった方、離職した方、
大学を卒業した留学生など、さまざまな状況の
外国人が参加。

2021.03.12 更新 3月20日 鈴鹿お仕事フェア 合同企業説明会	
開催日	2021年3月20日(土・祝) 13:00 ~ 16:00
開催場所	鈴鹿市役所12階(無料駐車場あり)
対象	鈴鹿市内でお仕事(正社員、パート、アルバイト等)を探している新卒学生・社会人
参加費無料・履歴書不要・服装自由・入退場自由	



ご清聴いただき、ありがとうございました。